

## 南海トラフを想定した避難誘導訓練

10月6日(木)、土佐くろしお鉄道(株)が、土佐入野駅および本庁舎で「南海トラフを想定した避難誘導訓練」を行いました。

同訓練は、平成23年から県内各所で行われており、今年で12回目。訓練には、高知県警察、中村警察署、大方中学校の生徒18名、入野小学校の児童28名など約100名が参加し、地震により緊急停車した列車からの脱出訓練や、避難場所である本庁舎までの避難訓練、本庁舎ではヘリコプターでの救助訓練も行われました。



列車からの脱出訓練をする児童

同社の岩合佳孝(いわがいかたか)鉄道部長は、「列車からの脱出方法を知ってもらった良い機会になった。いざ災害が起こった時、運転手1人では対応できないこともあるため、皆さんにも協力してもらえれば」と話し、また、大方中学校2年生の荒井文也(あらいふみ)さんは、「いつもと違う貴重な体験ができた。この経験を友人にも伝えていきたい」と話しました。

## 大方高校でアイデアソン

10月6日(木)、「私たちのまちを守るアプリを企画せよ」をテーマに、大方高校でアイデアソンが行われました。

アイデアソンとは、特定のテーマを決めてグループ単位でアイデアを出し合い、その結果を競うイベントのこと。同校生徒83名のほか、関係者ら約130名が参加しました。

同校2年生の山沖桃子(やまうちとうこ)さんは、「どんな意見が出るのかワクワクする。年齢も離れていて、先生とは違った立場の方もいるので、いろいろな意見を聞けたら」と意気込みを語りました。



グループワークを行う様子

イベントでは、オリエンテーションやグループワークが行われ、本敏郎町長ほか計5名による審査の後、海を好きな人にスポットを当て、移住を促進する「海まちE住」というアプリを考えた20班に、町長賞が贈られました。

## 津波シェルター受贈式

(二社)減災サステナブル技術協会(株)ミズノマリンより津波シェルターの寄贈があり、10月9日(日)、土佐西南大規模公園「海のバザール」で受贈式が行われました。

今回寄贈された津波シェルターには、大人8人が避難できるキャブンスペースや、完全に浸水しても沈まない浮沈構造や船体が横転しても自然復帰するセルフライディング構造などの機能が搭載されています。

同協会の浅沼博(あさぬまひろ)会長は、「津波シェルターは1日も早く必要だと思っており、対策は大災害に間に合うかどうか時間の問題。町の方と話し合い、機能を高めながら、次の製品作りに努めたい」と話しました。



浅沼会長(左)と松本町長(右)

寄贈された津波シェルターは、海岸利用者の津波避難の選択肢の1つとして、「海のバザール」の駐車場付近に設置されています。

## 第17回土佐さがのもどりガツオ祭

「第17回土佐さがのもどりガツオ祭」が10月15日(土)、黒潮一番館で3年振りに開催され、町内外から約500人が来場しました。

新型コロナウイルス感染症の影響により今回は規模を縮小。例年のイベントや出店などは行わず、薫焼きカツオタタキの節やイヨ飯、販売されたカツオは、前日に水揚げされた40本を節に捌き、薫焼きして約320節を用意し完売となりました。

町内から来場した高橋長子さんは、「いつもはボランティアスタッフとして手伝っていたけど、今年は規模縮小だったのでお客さんとして。佐賀のカツオはやっぱ新鮮で美味しい。天気にも恵まれてよかったです」と話しました。



薫焼きタタキを購入する来場者



カツオを薫で焼き準備するスタッフ